

経営比較分析表

兵庫県 豊岡市

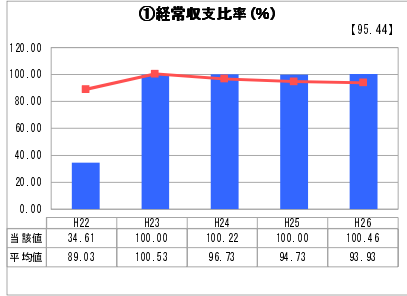
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法適用	下水道事業	個別排水処理	L2	
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	△0.97	0.27	100.00	2,970

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
85,749	697.55	122.93
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
228	0.18	1,266.67

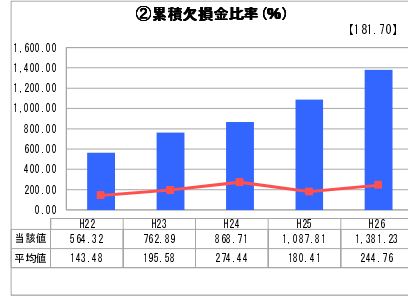
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 平成26年度全国平均

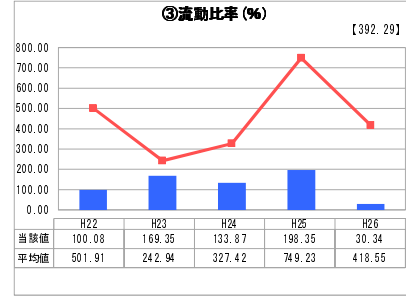
1. 経営の健全性・効率性



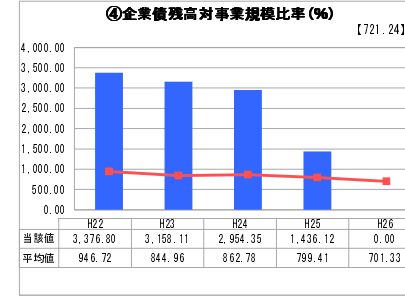
「経常損益」



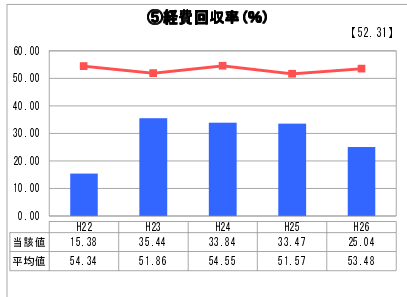
「累積欠損」



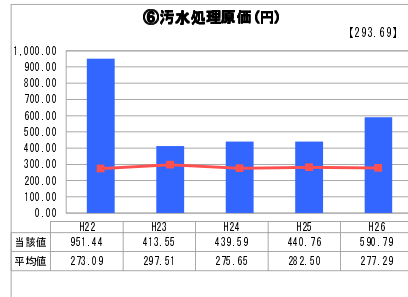
「支払能力」



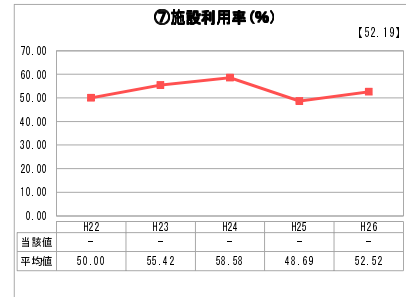
「債務残高」



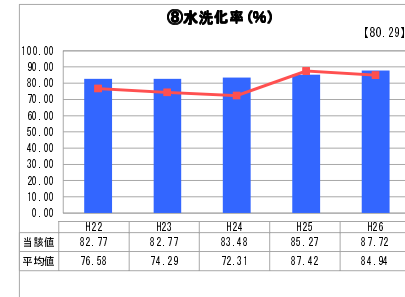
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

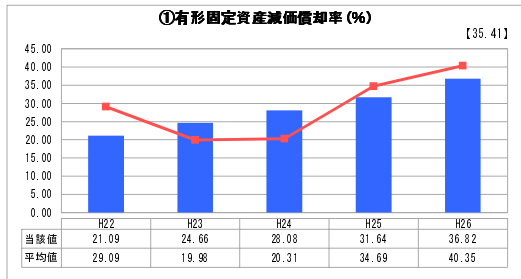


「施設の効率性」

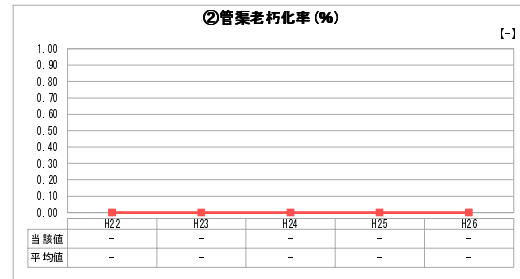


「使用料対象の捕捉」

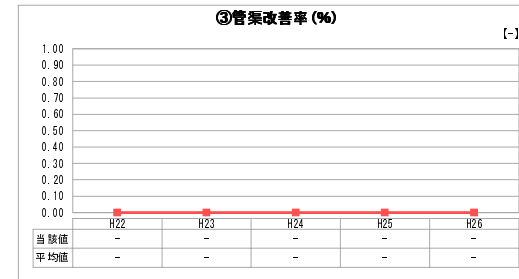
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支で単年度赤字でないものの、一般会計からの繰入金に依存している。
また、類似団体及び他事業と比較して、供用地域のほとんどが山間地域であるため、汚水処理原価が高く、下水道使用料の収入では経費を到底賄えていない。
近年の使用料収入の減少や支払利息が影響して累積欠損比率が高くなっている。
これを改善するために、平成28年度には下水道使用料を改定し、水洗化を促進し有収水量の確保に努め、汚水処理原価を抑えていきたい。
さらに、累積欠損比率を低くするために、経営改善によって費用削減を行い、利益剰余金を積み上げ、資本増加を図ってきたい。

2. 老朽化の状況について

類似団体よりも償却率が低いが、施設の老朽化が進んでいる。
今後は、将来の運営状況を考慮し、投資の合理化に努める。

全体総括

依然として、一般会計からの繰入金に依存しており、独立採算による経営が出来ていない。
また、下水道使用料の収入だけでは経費を賄えず、水需要の減少により有収水量の増加も厳しい状況であるが、さらなる経費削減を図るため、業務の合理化、効率化に努める。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。